

第8章 サイモンフレイザー大学 遠隔教育センターと大学院プログラム

吉田 文 (メディア教育開発センター)

サイモンフレイザー大学はカナダの西、太平洋に面するブリティッシュコロンビア州にある州立大学である。キャンパスは、州都バンクーバーの郊外のバーナビーの小高い丘の上に建てられており、バンクーバーの町が一望にみわたせる。大学は1965年に約2,500人の学生を擁して開設された比較的新しい大学であるが、その後学生数は急増し、現在は開設当初の8倍強の21,000人が在籍している。

遠隔教育プログラムは大学開設から10年遅れて1975年に始まっている。当初の学生数は55人であったが、現在は1年に12,000人以上が在籍しており、カナダでも有数の遠隔教育プログラムを誇っている。

遠隔教育のプログラムは、学士 (Bachelor)、修士 (Master) 以外に、資格 (Certificate)、中等教育後のディプロマ (Post Baccalaureate Diploma)、また、主専攻 (Major)・副専攻 (Minor) など多様であるが、それ以外に学位につながるプログラム以外にも多様な単独のコースを提供している。大学院のプログラムは、1997年9月に地理情報システム修士 (Master of Science in Geographic Information System) が、それまでの資格プログラムの上に、イギリスのプログラムと協力して開設された。1999年1月から経営学修士 (Master of Business Administration) のプログラムが開設され、また、教育学修士 (Master of Education) も計画中である。

これら遠隔教育のプログラムは、すべて遠隔教育センター (Center for Distance Education) において統括され、オン・キャンパスのプログラムとは独立して管理されている。

以下では、これら大学院のプログラムも含めて、遠隔教育センターがどのような機能を果たしているのかを検討しよう。

1. 設立の経緯・目的

サイモンフレイザー大学の位置するブリティッシュコロンビア州は、サイモンフレイザー大学以外に、ブリティッシュ・コロンビア大学、ビクトリア大学、北ブリティッシュ・コロンビア大学の4校の大学があるが、近年、州民の高等教育への就学要求の高まりの中で、就学希望者を十分に収容できない状況にあり、また、新規に大学を開設することも容易ではない。多くの州民は、ブリティッシュ・コロンビア州の外で学位をとっているという。また、職業に関する新規な知識の獲得や再訓練に対する要望も高く、これまでもバンクーバーの町中において夜間コースを開設して対処してきている。

これら二重の教育需要に応える方法が、遠隔教育である。キャンパスという空間なしに、また、職場を離れずに教育を受けられる方法は、近年とくに注目されてきている。というのは、センターが開設された1975年以来、印刷教材をベースにし、それに教育テレビを活用する方法を加えて行われてきたが、近年のコンピュータとインターネットの普及が遠隔教育に新たな道を開いたからである。従来の印刷教材やテレビでは、教員と学生との間のコミュニケーション

は一方方向に限られており、双方向性のコミュニケーションの確保のために、スクーリングなどが設けられていた。しかし、インターネットは、同期・非同期合わせて双方向のコミュニケーションを可能とするようになったため、遠隔教育にとっては画期的であり、さらに遠隔教育だけでなく、従来の対面式の授業においてもオンラインの利用は徐々に増加している。

大学院のプログラムが開設されたのも、それと無縁ではない。教員と学生、学生間の頻繁なコミュニケーションが可能となれば、スクーリングを設けなくても、それ以上のコミュニケーションを維持しつつ教育の効果をあげることができる。こうしたところに、サイモンフレイザー大学で大学院のプログラムが開始されたのである。

2. 遠隔教育センターの機能

遠隔教育センターは、アカデミックな観点において質の高い教育プログラムを生涯教育として提供し、それが職業人の職業遂行上に寄与することを目的としている。非伝統的學生やパートタイム學生の需要に、大学の教職員と地域のコミュニティと共同して応えることに重点が置かれている。

質の高いプログラムを作成するために、コース開発は、教員のもつ知識を資源とし、それをいかに遠隔教育のコースとして有効なものにしていくかをセンターのスタッフが担うという共同と分担によって行われている。しかも、社会的な需要に応えられる学際的なプログラムの開発が目指されている。様々の学科の教員と27人のセンターの専門職員とがチームワークを組んで、カリキュラム計画、教授デザイン、コンピュータの教育への利用などが検討され、その過程で、映像の利用、編集、DTP作業、著作権問題の解決などが行われる。さらにセンターでは、學生の登録、教材の配布、試験会場の監督、コースの評価、チューターの評価、チューターのオリエンテーションなどが行われる。

センターには、ローン・ラボ (Lohn Lab) というオンライン教育をサポートする部所があり、そこではオンライン・コースやwebコースを開発しようとする教員のサポートを担当している。具体的には、遠隔訓練、相互教授、協調学習、シミュレーション、ロール・プレイングなど活用方法などについてサポートをしたり、WWWの作成を援助したりしている。このローン・ラボはインターネットによる教育の発展のなかで新たに設置されたセクションである。

3. 教材の作成と配信の技術

遠隔教育の教材は、伝統的には印刷教材であるが、近年のテクノロジーの発達にもなって多様化している。そうした中で、サイモンフレイザー大学では、高等教育へのアクセスを最も容易に可能にするとして、現在でも印刷教材の制作には力を入れている。印刷教材は、自学自習を容易にすることに焦点をあてて学習ガイドとして作成される。30点以上の学習ガイドがそれぞれのコースの教科書の基礎として用いられている。

ビデオは、動画と音声を伝達できるという点で有効である。センターでは、1990年から現在まで21点のビデオのコースが作成されており、そのうち4点(地理学、犯罪学2回、教育学)がカナダ・メディア・テクノロジー協会やカナダ高等教育学会から、その質の高さで賞を受けている。

また、放送も重要な手段である。Knowledge Networkとよばれる公共教育テレビを利用して34のプログラムが放映されている。Knowledge Networkはブリティッシュ・コロンビアのほぼすべての地域で視聴可能である。ここで放映されるプログラムは、単に遠隔教育コースのためだけに用いられるのではなく、キャンパスの学生や、教員の研修にも用いられている。

その他、CD-ROM教材、ビデオ会議、電子メール、オンライン教育などが行われている。これらを担うのがローン・ラボであり、ここの専門職員がオンラインの教育への試用方法についてサポートし、また効果的な利用方法についての研究も行っている。このローン・ラボは、州政府やローン財団の資金援助を受けて維持されている。

教材の特徴として、あるコースが必ずしも1つのテクノロジーのみで作成されているわけではないことである。VCRとコンピュータ、テレビ放送とオーディオカセットなどが組み合わされている場合がかなりある。効果的な伝達と効果的な学習という観点からそれらの組み合わせがなされているのだが、近年新たにはじまったオンライン教育の場合は、従来の印刷教材のコースをオンラインとし、両者の学習の進捗状況を比較検討しながらそれぞれの長所と短所を明らかにする試みがなされている。

4. 国際交流

センターの役割は、ブリティッシュコロンビア州内に限られているわけではない。州を超えて世界と結ばれている。それは、センターの開発したプログラムを国際的に提供するという意味においてではなく、発展途上国を対象に、各地域が遠隔教育のプログラムを発展できるように研修をはじめとする各種のサポートを行うという意味で世界と結ばれているのである。

カナダ国際発展機構 (Canadian International Development Agency)、連邦学習機構 (The Commonwealth of Learning) と協力して、各地域の遠隔教育プログラムの開発のための研修、タイの遠隔教育プログラムの評価、南太平洋地域の学校の考古学、犯罪学、言語学に関するプログラムのサポートなどを行っている。

また、それ以外にもキューバ、フィリピン、ガーナ、西インド諸島への遠隔教育プログラムの発展のための支援プロジェクトを行っている。

組織的なプロジェクトとしての国際交流以外にも、個人的にも国際交流に従事することが推奨されている。

5. スタッフの構成

こうした諸活動を行うセンターのスタッフは、アカデミック・スタッフから秘書や事務職員などまで含めて総勢27人、そのうち15人が博士号を、4人が修士号を持っている。また、国際交流に積極的に従事するというセンターのミッションのため、フランス語、スペイン語、ポルトガル語、ドイツ語などのヨーロッパ言語に堪能な者、さらには、インドネシア語、スワヒリ語、広東語などに堪能な者もいる。カナダのみならず、諸外国で遠隔教育に関する職業に従事した経験者も多いという。

専攻した領域は教育学、文化人類学、英語学、心理学など多様だが、遠隔教育に関する経験を積んでいるという共通項も持っている。

6. 提供しているプログラムとコース

提供しているプログラムとコースは、資格プログラムとしては犯罪学、健康科学、リベラル・アーツ、識字教育が、ディプロマ・プログラムとしては犯罪学、教育学、第二言語としての英語教育、民族学・国際関係論、社会政策論が開設されている。

学位コースとしては、一般研究 (general studies)、犯罪学、心理・犯罪学の学士号がある。また、副専攻として教育学、英語学、コミュニケーション、運動療法がある。さらに、学士号を取得した後にもう一つの学士号を取る場合も遠隔教育が利用できる。この第二学士号は、60単位を取得すればよい。

そして、修士号としては先にあげた、地理情報システム、経営学があり、また、教育学の開設が予定されている。

遠隔教育が対面授業よりも質が低いのではないかという危惧を払拭すべく、どのコースやプログラムでも遠隔教育と同じ内容にし、かつ遠隔教育とキャンパスの教育とは、全く同じ処遇をうける。

7. カリキュラム

地理情報システムの修士課程には、1997年から4ヶ月ごとに30人の学生が入学して、現在約90人が在籍している。このプログラムは珍しく、カナダではサイモンフレイザー大学以外にもう1校、世界でもイギリス、イスラエル、ブラジルなどの7大学にしかない。サイモンフレイザー大学では、ローン・ラボを積極的に活用し、全くオンラインでコースが提供されている。電子メール、コンピュータ会議が主たる教育手段である。

学習ガイドや教科書を併用して平日は自学自習し、週末にはコンピュータ上でグループ・ディスカッションが行われる。通常4~5人で行われる週末のグループ・ディスカッションへの参加は必修とはされていないが、他の学生と共同して学習を進めるうえで効果があるため、参加は推奨されている。

経営学修士号は、コースを担当する教員は管理者であり、課題を出しその評価を行う。日常の個人及びグループの学習を支援するのがチューター・メーカーであり、大学院生がその役割を果たしている。カウンセリングのようなものは置かれておらず、チューター・メーカーの役割はあくまでも、学習面の支援に限定されている。経営学修士では必修でサマー・セッションの面接授業に参加する必要があるが、4~6週間で3コースの履修が可能である。ここでもオンラインの利用が試みられている。サイモンフレイザー大学およびカナダの他大学との共同で開発された、Virtual-Uというソフトを利用して実験的にオンライン教育が行われている。これまでのところ、コンピュータ・リテラシーの有無がオンライン教育の成否に影響を与えることが確認されている。また、コンピュータ上でのグループ・ディスカッションが負荷となる場合もあることが確認されている。

8. 入学要件

学士課程への入学は、通常のオン・キャンパス・プログラムへの入学と同様ブリティッシュコロンビア州において第12学年の修了証明、認定されている中等後教育機関からの転学の場合は、

履修した科目と成績証明が必要とされる。

また、修士課程やポスト・バカロレア・ディプロマのプログラムへの入学希望者は学士号を取得していることが条件である。

遠隔教育ではいくつかの特別制度を設けており、1つは、すでに学位を持っており、その後、遠隔教育の第二学位、ディプロマ、資格のコースに入学する者をさす。また、23歳以上の学生で過去に中等後教育で1年以内のコースワークを修了しているが、サイモンフレイザー大学の基準に満たない者が、成人学生として入学を許可される制度がある。これは、1年以内の在籍という条件があり、1年以上の在籍経験があるものは除外される。

通常は志願者の90%程度しか合格しない。これはひとえに学業成績という基準を厳格に適用するからである。しかし、多様性を重視する観点から、1997年から3年間を試験期間として、学業成績の基準には満たなかったが、他に特別に注目すべき資質を有している者を10%まで入学させて、その後の経過を観察している。

留学生にも門戸を開いており、10%以内の範囲で入学を許可している。通常は入学者の7%程度が留学生によって占められている。

また、カナダ人およびカナダ永住権の保持者で、カナダ外に居住している者も入学ができる。チューター・メーカーとの電話でのやりとりをしながら、キャンパスの学生と同じペースで課題を提出し試験を受けることが課されている。この場合、遠隔教育であることのハンディが、すなわち、アカデミックな基準においてキャンパスの学生と区別されないことはもちろん、レポートや試験の提出期限などにおいても、郵便事情による期日の遅れなどが考慮されないので、こうしたコースを履修することは必ずしも勧められてはいない。その旨は、わざわざ学生便覧にも記されていることが興味深い。

9. 授業料

遠隔教育の授業料は、そのコストから考えてもオン・キャンパスの授業料に比較して廉価である。サイモンフレイザー大学も、遠隔教育の場合、まず、コース登録料のデポジットとして100カナダ・ドルを支払う必要がある。これは授業料の一部となるものであり、コースを履修すれば、1 Semester 時間77カナダ・ドルの授業料から差し引かれる。

コース教材費が1コースあたり30カナダ・ドルかかる。オーディオ・テープ、ビデオ・テープ、著作権が関係するなどコース終了時には返還が求められている教材は、最低20カナダ・ドルから最高85カナダ・ドルのデポジットがとられる。

学位や資格などの取得のためには20~35カナダ・ドルがかかる。

それ以外に、学生の諸活動やスポーツ・レクリエーションのための費用は、数十カナダ・ドルかかる。

これらの費用を支払うことが必ずしも、容易ではない学生に対しては、授業料支援サービスが提供されている。これは、必ずしもフルタイムの学生だけでなく、パートタイムの遠隔教育の学生にも利用可能である。学費の支援としては、奨学金タイプのもものとローンタイプのものがあり、奨学金については、オン・キャンパスとフルタイムの遠隔教育の学生と同じ基準で支給される。パートタイムの遠隔教育の学生は、ブリティッシュコロンビア学生支援プログラ

ム、カナダ学生ローンなどへの申請ができる。支援の範囲としては、授業料、書籍、コース教材、交通費、場合によっては保育費などまでが対象になる。

10. 学習のサポート・システム

遠隔教育の学習を容易にする上で重要なのが、学習の過程を支援する仕組みである。サイモンフレイザー大学でも、これまでたびたび触れてきたが、コースの担当教員以外に、学生4～5人に1人の割合で、チューター・メーカーといわれるチューターが割り当てられ、教員の出した課題への回答の指導や、学習相談を担当している。学生とチューター・メーカーとのコミュニケーションは基本的には電話で行われるが、オンライン・コースの場合は電子メールがそれにかわる。電話の場合、カナダ内であればコレクト・コールが利用できる。カナダ外の場合は、長距離電話の費用は自前となる。

図書館サービスは、バンクーバー地域外に居住する学生の場合、Telebook Service of the University Libraryが利用できる。書籍、学術雑誌などが対象となっているが、その詳細はコースによる。

ファックス・サービスは、学生がより便利にコミュニケーションをとれるために遠隔教育センターが設置しているサービスであり、要件を記した表紙や各ページに氏名を記すなどの条件つきで、どのような内容においても受付をしている。

教育資源室 (Academic Resoure Office) は、継続教育コースの学生、学習の継続に支障がある学生、専攻が決定できない学生などの支援を行っている。市外の学生は、手紙ないし電子メールでのコンタクトが可能であり、また、アドバイザーとの電話による相談のスケジュールも調整してくれる。

11. 学生層

遠隔教育のコースやプログラムに入る学生の多くが、職業をもつ成人であることは予想できるところである。サイモンフレイザー大学も、その例にもれない。大学教育を受けていない学生、職業的な知識のスキルアップ、職業人の学位の高度化など、遠隔教育センターから提供されるコースやプログラムは、そのような人々によって占められている。これは遠隔教育のコースを提供している機関に共通した傾向である。

それだけでなく、このサイモンフレイザー大学の興味深い特徴としては、オン・キャンパスの学生として登録している者が、学位取得に至る道の1つとして遠隔教育を利用していることである。遠隔教育とオン・キャンパスのコースとにアカデミックな質の上で、何ら差異はないとされているために、オン・キャンパスの学生が遠隔教育センターから提供されているコースを履修して単位を修得した場合にも、オン・キャンパスのコースと同様に処遇される。したがって、オン・キャンパスの学生の多くが、コースとして遠隔教育で単位を修得しているという。さらに、オンライン教育の場合、それが遠隔教育なのか、通常の教室での授業の代替なのか、その区別は決して容易ではない。

12. 将来計画

遠隔教育センターとしての将来計画は各種あるが、1つは、遠隔教育の大学院のプログラムの充実であろう。修士課程プログラムは、地理情報システム、経営学がすでに開講し、教育学の開講が予定されているが、現在、ポスト・バカロレア・ディプロマである犯罪学などもその1つの候補であろう。

また、現在、実験段階にあるオンライン教育の効果的な利用についても検討課題となっている。それは遠隔教育だけでなくオン・キャンパスの教育についても、オンラインの利用は大きな可能性を秘めている。

そして、センターのミッションの1つとしての国際交流がある。発展途上国を対象とした、遠隔教育プログラムの開発の支援のプロジェクトを行ってきているが、これは今後の、外部の諸団体との共同によってさらに進められていくであろう。

参考資料

1. Simon Fraser University, Distance Education (brochure) .
2. Simon Fraser University, Distance Education Programs and Courses, 1998.
3. Simon Fraser University, reaching out to the world International Services.
4. サイモンフレイザー大学のホームページ {<http://www.sfu.ca>} 上の各種資料。
5. Rob McTavish (Instructional Support, Lohmlab for Online Teaching, Center for Distance Education) へのインタビュー (1999. 2. 12)